

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社生活科学運営	ホーム名	SOL 星が丘 本館	ID	2924
	評価機関	株式会社 ケアシステムズ	評価日	2018/2/18	

スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価	スケール No.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.3	A	A	6.1.2	A	A
1.1.2	A	A	2.3.4	B	B	6.1.3	B	B
1.1.3	A	A	2.3.5	A	A	6.2.1	A	A
1.1.4	A	A	2.3.6	B	B	6.2.2	A	A
1.2.1	A	A	2.3.7	B	B	6.2.3	A	A
1.2.2	A	A	2.3.8	非該当	非該当	6.2.4	A	A
1.2.3	A	A	2.3.9	B	B	6.2.5	A	A
1.3.1	A	A	2.3.10	B	B	6.2.6	A	A
1.3.2	A	A	2.3.11	A	A	6.2.7	A	A
1.3.3	A	A	2.4.1	A	A	6.2.8	A	A
1.4.1	B	B	2.4.2	B	B	6.2.9	B	B
1.4.2	A	A	2.4.3	A	A	6.3.1	B	A
1.4.3	A	A	2.4.4	A	A	6.3.2	B	B
1.4.4	A	A	2.4.5	A	A	6.3.3	C	C
1.4.5	B	B	2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
1.4.6	B	B	3.1.1	A	A	7.1.2	A	A
1.4.7	A	A	3.1.2	A	A	7.2.1	B	B
1.4.8	A	A	3.1.3	A	A	7.3.1	B	B
1.5.1	A	A	3.1.4	A	A	7.3.2	A	A
1.5.2	A	A	3.1.5	A	非該当	7.3.3	A	A
1.5.3	A	A	3.1.6	A	A	7.3.4	A	A
2.1.1	A	A	3.1.7	A	A	7.4.1	A	A
2.1.2	A	A	4.1.1	A	A	7.4.2	A	A
2.2.1	A	A	4.1.2	A	A	7.4.3	A	A
2.2.2	A	A	4.1.3	A	A	7.4.4	B	B
2.2.3	A	A	4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
2.2.4	A	A	4.2.1	A	A	7.5.1	A	A
2.2.5	B	B	4.2.2	A	A	7.5.2	A	A
2.2.6	B	B	5.1.1	A	A	7.5.3	A	A
2.2.7	A	A	5.1.2	B	B	7.5.4	A	A
2.2.8	A	A	5.2.1	B	B	7.5.5	A	A
2.2.9	A	A	5.2.2	A	A	7.5.6	B	B
2.2.10	A	A	5.2.3	A	A	7.5.7	非該当	B
2.2.11	A	A	5.2.4	B	A	7.6.1	A	A
2.3.1	A	A	5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
2.3.2	A	A	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A

評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケルNo.	所 見
2-1-1	法人の会社案内やホームページをはじめ、ホームのパンフレットやチラシによって運営理念の周知に取り組んでいる。ホームのパンフレットには、4つの特徴を大きめの文字や写真を用いて分かりやすく標記している。また、ホームの専門性を地域に還元することで地域社会への情報提供や相談援助につなげている。具体的には「すみれカフェ」の名称のもとに、地域の人々を対象に専門職による音楽療法を体験してもらったり、映画鑑賞会を開催したりする機会を定例化させている。情報提供についても、ホーム外構の掲示板や近隣の郵便局、高齢福祉の在宅サービス事業所などにチラシを配布して丁寧に行っている。
2-1-2	ホームは2年前に現法人（株式会社 生活科学運営）に経営が移管されるという、経営的な変遷を余儀なくされている。移管に関しては入居者や家族に対して運営懇談会において丁寧な説明をするとともに、当初の契約内容が継続できるような適切な対応に努め、理解納得のうえ実施されている。特に別館利用者20名を本館に移転することについては、入居者（家族）の意向や要望を把握し、時間をかけて対応している。さらに、ホーム長や副ホーム長をはじめ個々の職員も継続勤務しており、安心感を与える運営体制が継続されている。
2-3-3	パンフレットやホームページに謳われている「4つの特徴」をしっかりと根付かせることに力を入れている。「接遇」に関しては一番の重点課題として位置付けており、新人研修、事業所内研修、OJTなどの機会を通じて意識の高揚を促している。また、「安心・安全」面では看護職員の24時間勤務体制、夜間の災害を想定した定期的な訓練の実施や感染症対策などが適切になされている。さらに、入居者や家族の意向や要望を尊重して「終の棲家」となるように、医療との連携のもとに「看取り介護」にも取り組んでいる。
7-5-5	入居者一人ひとりがより自立した日常生活が継続できるように、理学療法士（1名）や作業療法士（2名）を配置して半年ごとに身体機能の評価を行い、集団や個別の機能訓練を実施している。日常の様々な支援についても、それらの専門職による介護職員への指導助言によって、個別支援や自立支援につなげている。訪問調査を実施した際にも専門職の指導のもとに集団体操が実施されており、多くの入居者が楽しみながら参加している様子が確認できている。また、杖やシルバーカー、車椅子などの福祉用具についても、専門職の助言によって適切な選定につなげている。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケルNo.	所 見
7-5-2	ホームでは集団体操や個別にリハビリテーション以外にも、音楽系やアート系、その他の日中活動を用意して、「ホームでの豊かな生活」や「余暇活動の充実」を図っている。地域の人々にも人気の高い音楽療法をはじめ、手工芸、書道、フラワーアレンジメントなどが定期的で開催されている。ただし、高齢化や重度化などの傾向は否めないために、全体としては参加者や開催回数が減っていることをホームでは課題としている。さらに、「入居者のできることに着目したアイテムの充実」や「効率的に業務を推進することで職員の時間を捻出する」などに取り組む、入居者の生活の質を向上させることを目指している。
6-2-3	入居者一人ひとりの個別支援や自立支援を達成することを目的に、アセスメント、ケアプラン、ケース記録、モニタリング、ケアプランの見直しなどが盛り込まれたケアマネジメントを実施している。利用開始時に作成したケアプランは1～2か月間の様子観察をもとに再アセスメントし、以降は長期目標（6か月）、短期目標（3か月）に沿って達成状況を確認し見直しにつなげている。さらに課題分析に力を入れて個々にニーズを把握し、より内容の充実したケアプラン作りを目指されたい。